

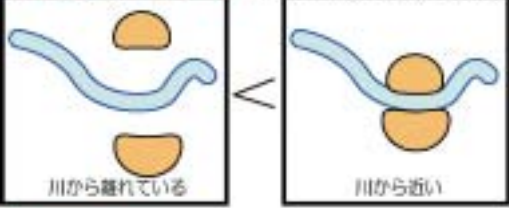
達古武地域における森林再生 ベースマップの作成と保全・再生優先度の検討 (8/10)

5 - 3 . 保全・再生優先対象地の抽出 - 土砂流出の可能性のある貧植生地 -

■考え方

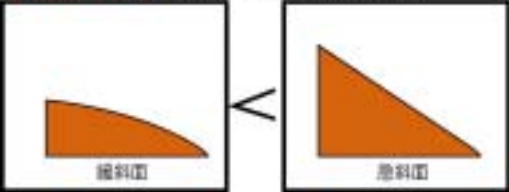
- 湿原への土砂流出の防止の視点から自然林再生を行なう優先度の高い場所を抽出した
- 湿原・河川に土砂を供給している可能性がある場所として、裸地・造成地と、それに接している二次草地・小サイズ疎林を「貧植生地」として抽出した。
- 「貧植生地」の中から沢に近く、傾斜が急な場所を候補地として選出した。

貧植生地の分布パターン…湿原・川に近い場所ほど流出の影響は大きい



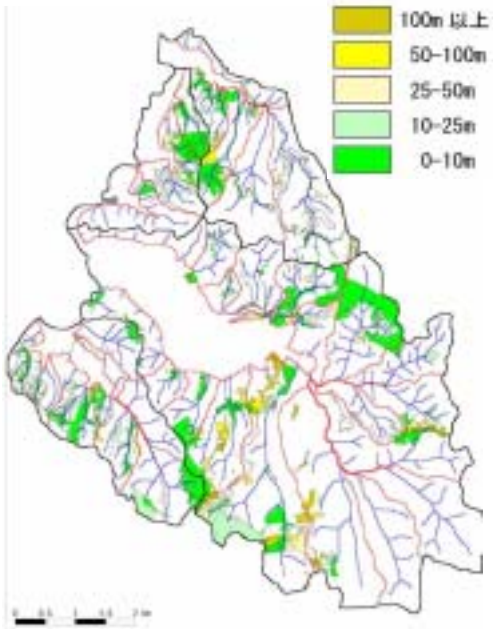
- ここでは便宜的に25m以内を抽出距離として採用。

貧植生地の地形…急斜面ほど流出の影響は大きい

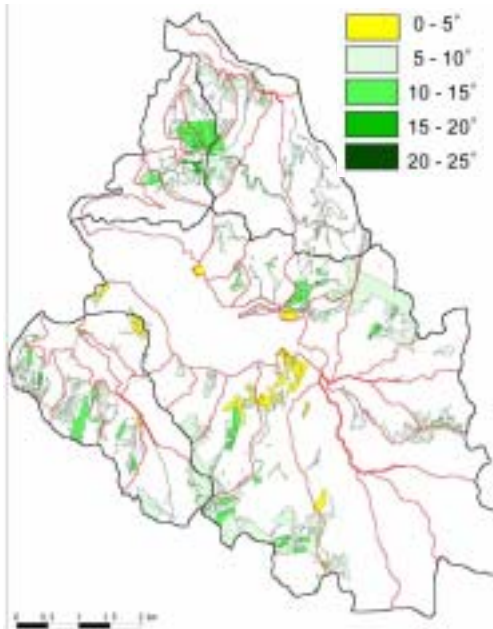


- ここでは便宜的に5度以上を抽出角度として採用。

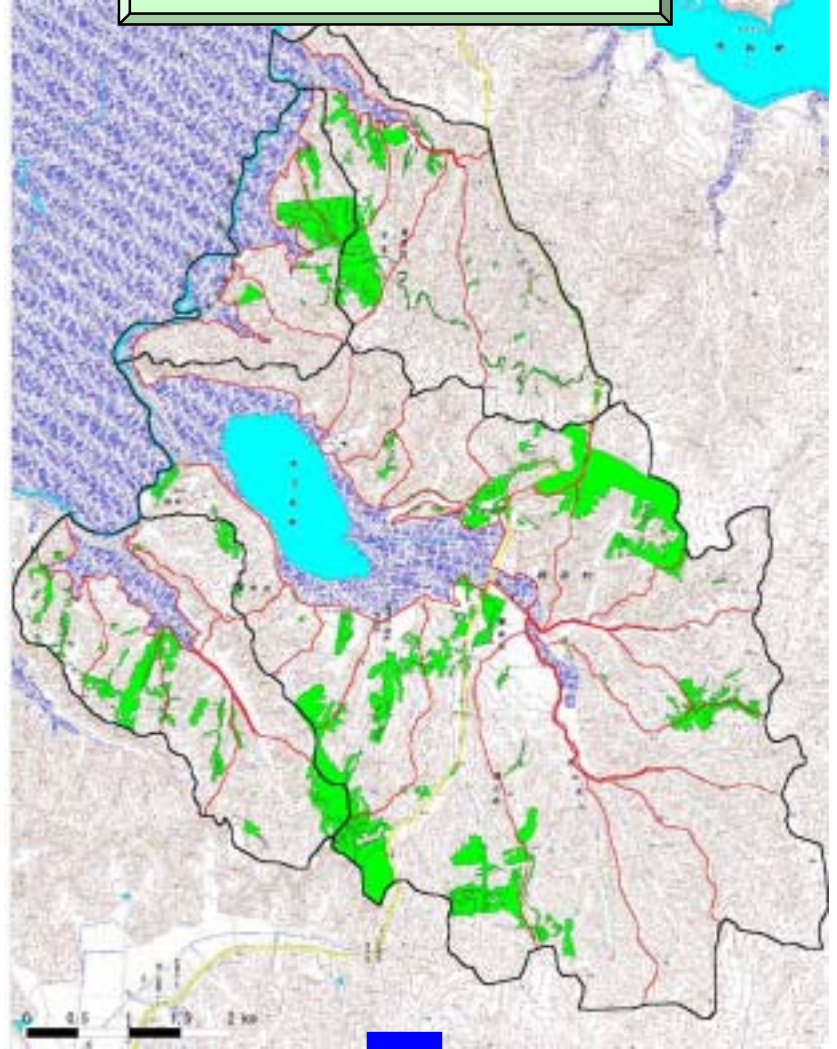
● 湿原・沢からの距離データ



● 傾斜角度のデータ

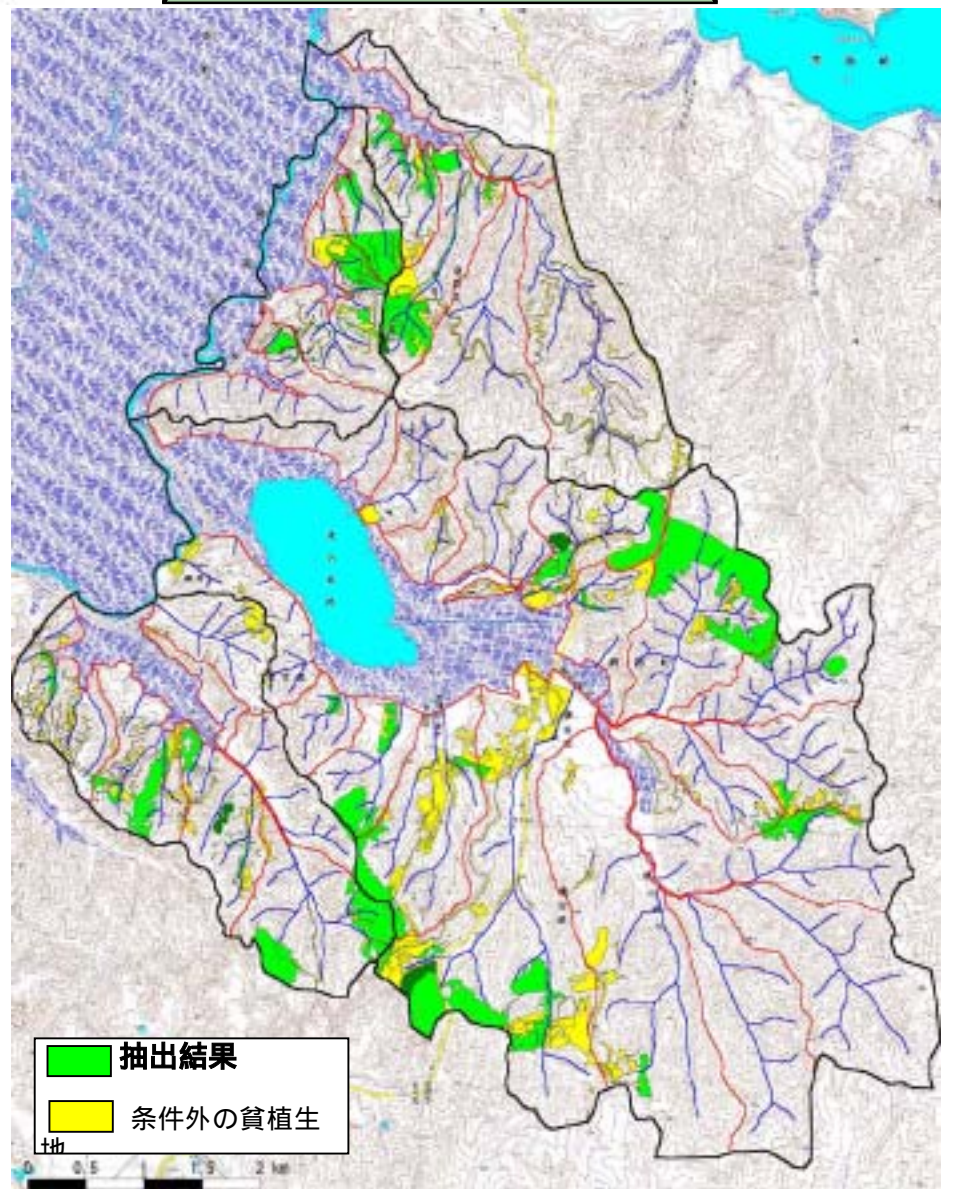


● 「貧植生地」の分布



条件フィルタ
面積が1ha以上で、
その一部が沢から25m
以内にあり、斜度が5度
以上あるもの

● 土砂流出の可能性のある貧植生地



■結果

- 全域の6.4%、269haが抽出された。
- この中には、東北部の国道周辺の伐採跡地、南部の旧国道周辺のササ草地、トラスト地「塘路64」の幼齢造林地などが含まれる。

植生タイプ	全域		沢から25m以内/斜度5度以上	
	面積 ha	割合%	面積 ha	割合%
作業道・裸地・造成地	98	2.3%	38	0.9%
伐採跡地	98	2.3%	64	1.5%
幼樹植林地	101	2.4%	77	1.8%
二次草地	126	3.0%	56	1.3%
落葉広葉樹疎林	74	1.8%	34	0.8%
合計	497	11.8%	269	6.4%

■今後の課題

- 今回用いた沢からの距離(25m)や斜度(5度)は仮設定の値である。また、複数の要素を組み合わせる場合は、それぞれに重み付けをするような関数が必要となる。
- 土砂流出のメカニズムと量的な予測方法は十分に把握されていないため、植生・沢からの距離・斜度の組み合わせは正確には評価できないが、ここでは一般的に予想される可能性で評価した。今後、モニタリングデータ等によって検証していく必要がある。
- 今回は地形条件と植生区分のみを用いたもので、社会条件(土地所有状況・利用状況等)は考慮していない。今後、社会条件による実施可能性の面からの分析も加え、自然林再生の対象地を検討していく必要がある。